

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019
法人名	(株)サンメディックス
事業所名	グループホームにこピア浄法寺
所在地	〒028-6911岩手県二戸市浄法寺町上前田34
自己評価作成日	平成 22年 2月 23 日
評価結果市町村受理日	平成 22年 7月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391300019&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に稲庭高原があるため、頻繁に行楽に行くことができる。 体育館があるため時間に関わらず運動ができる。 敷地が広い為、散歩、園芸等で外に出る機会が多くある。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、名刹天台寺のある二戸市浄法寺町に所在する。近くには地元の方々が親しむ稲庭高原があり、四季を通じて豊かな自然に囲まれている。廃校した小学校を改修した建物の2階にホームがあり、1階には同法人の小規模多機能施設が併設されている。廊下やトイレは広く、手すりも取り付け、加えてエレベーターも設置し安心・安全に工夫が見られる。校庭はゲートボール大会などに開放され地域との交流を深めている。農村の町で地域との交流、関わりをどう築いていくか課題としており、管理者と職員で話し合いを行っており今後の取り組みに大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 21 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこぴア浄法寺

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしくを実現する為に、調理が出来る方は調理、踊りが好きな方は行事のときに披露していただく等の残存機能の維持に努めている。	「その人らしく暮らすこと」「地域と施設・入居者と家族のきずな」の理念のもと、毎日の送り時や毎月の定例会議で、利用者一人ひとりの支援の関わりを話し合いし確認しながら職員間で共有し実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブゲートボール大会では敷地を提供し応援等に参加している。 浄法寺祭りでは流し踊りの参加を実施している。	地域の保育園や子供会との交流を行うほか、ホームの焼肉パーティーでは、ボランティアの応援をもらったり、また地区のお祭りに参加するなど、いろいろな機会を捉え近隣の方々との交流に取り組んでいる。	小学校との交流を計画したが実現までには至らなかった。次年度は交流を図りたいとしており、今後の取り組みに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	浄法寺町主催の文化祭では、利用者様のへ出展作品を促し職員と共に作業し出展している。 今年度は期間切迫の為未出展。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H216月を最後に運営推進会議を開催していない。	運営推進会議は、3回目を3月に予定しているが、会議では、主として利用者の暮らしや活動の状況などの報告のほか、意見交換の中で、広い校庭の使い方などが話題として出されている。	運営推進会議は、ホーム運営の協力者として理解を得るためにも、定期的に関し課題を積極的に提案して取り組まれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小学校の建物であったため、市、町役場の定期的な視察のたびに現状報告を行なっている。	運営委員として会議に出席しているほか、パンフレットを配布したり、利用状況や身体状況の報告、介護認定やスプリンクラー取り付けの相談など、様々相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊の強い利用者様のケアでは不穏時買物に付き合ってもらった等のケアを行なっている。	マニュアルをもとに勉強会を行い職員の共有意識を図りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。なお玄関の鍵は、夜間はかけるが日中は掛けていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを用いての部勉強会の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを用いての部勉強会の実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書、重要事項の墓に家族からの希望、不明点について話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会へ招待し家族様からのご要望をお聞きする場を設けている。	運営推進会議の場を通じて要望など聞くほか、利用者の誕生会や面会時に家族が来訪したときを利用し意見等を聞く機会を設け、その結果を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期職員会議を設け意見交換を行なっている。	毎月開催する職員会議で、意見や提案などを聞いており、有給休暇や看護師の勤務体制、交代の勤務時間、連絡帳の活用方法などについて検討見直しするなど、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を元に出勤実績をあわせ労務に努めている。 勉強会、職員会議の場を持ち意見交換に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シルバーグループ研修として管理者、看護、介護福祉士、リスクマネジメントの各研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長寿社会課主催の研修、二戸市福祉課主催の研修の参加		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の意向を重視し聞き取りを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の趣味活動を伸ばしていけるよう家族様より聞き取りを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人、ご家族に必ず面談の場を持ち入所時の希望や併設しているサービスの内容を説明し洗濯できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の流れを活かし掃除、家事を共同し行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会等行事の場を持ち電話広報を通じ家族と関わる機会を働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者自身の希望により家族の方、身内の方へ電話連絡をし交流を図っている。 またドライブの機会を設け外出している。	食材を買いにスーパーに出かけ従業員と会話をしたり、行きつけの理・美容院に出かけたり、また、近くの稲庭高原への山菜取りや紅葉を見にドライブに出かけるなど、馴染みが途切れず継続して対応できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常での関わり、行事を活用し利用者同士の交流に繋げられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話連絡を通じ、状況伺いを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	残存機能を聞き取りしその方にそった計画を作成している。	日常の暮らしの行動や表情を観察しながら、利用者の気持ちや意向の把握に努めている。また、困難な場合は、家族や関係者と相談し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴を出来るだけ壊さないように声がけ等で対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況にて部屋の配置を決め無理の無い環境作りに勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	既往歴、面談等にて十分な話し合いにて好み趣味等を把握した上で介護計画を作成している。	暮らしのかかわりで本人・家族の意向を取り入れ、「今一番必要なケアは何か」について職員間で話し合いを重ね、介護計画の作成をしている。状況により変更が必要な場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートを活用し情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望を受け併設している事業所の紹介、サービス利用への調整を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	催し者への参加や買物への同行、買物の機会を作り資源を活用したサービスを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を結んでいる診療所への定期受診にての対応で行なっている。	医療受診は、原則として本人・家族の希望するかかりつけ医である。変更する場合は相談している。また、通院は必要により職員が同行して受診しており、医療機関とは連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りにて対応又、緊急時には看護師、診療所看護師へ報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往歴、連絡先(事業所)を伝えいつでも対応できるようにし努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様との十分な話し合いをし他施設、医療機関への検討の促し。	契約時にホームとして対応できる支援について、利用者・家族に説明し了解を得ている。医療が必要となった場合には、他事業所の紹介などを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より日々の業務にて状況に応じた対応の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の消防計画にそって訓練又、対処法を未につけている。	防火管理者の指導のもとでの避難経路の確認を兼ねたシュミレーションを行っているが、消防署立会いのもとでの避難訓練等は未実施としている。22年度の実施に向けて計画中としている。	火災報知機の点検やスプリンクラーの設置も計画しているが、利用者の安全のために避難訓練の実施を消防署の指導、地域の協力を得ながら実施されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人教育又、職員間での指摘にて対応が来ている。	プライバシーマニュアルを基に、職員間で良く話し合い、声がけや言葉使いに注意している。トイレ誘導では、「ちょっと歩いてきますか。」といった何気ない声掛けなどで対応している。特に新任職員には採用時に研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時には自分で着替えを選んでいただき自己決定の働きに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事以外は特に時間の決まりをつくらず生活支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	部屋着から外出着への切り替えにて外出時の気分を引き出す支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が出来る方、盛り付けが出来る方、箸を置く方、湯飲みを用意してくれる方と役割をもっていただくよう務めている。	献立は、利用者から好みを聞き、それをもとに食材を購入したり、調理や盛り付けをするなど、利用者の役割を発揮できるよう工夫し、支援をしている。職員も一緒に食卓を囲み話題を提供しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックにて管理し日々の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員と共に口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックで管理し排泄パターンを把握し誘導、声がけを行なっている。	自力歩行が可能な利用者が多く、排泄はほぼ自立している。声がけ誘導が必要な利用者に対しては、チェック表で管理、時間を見て声がけし、できるだけトイレで排泄できるような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて排便のマイナスを管理し、果物や飲み物等で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う利用者様同士の入浴や入浴拒否のある利用者様には併設事業所の入浴場の提供等で工夫している。	入浴は1日おきに午後の対応となっている。利用者同士一緒に入ったり、介助の職員と話をしながら入ったりと楽しんでいる。「今日は入りたくない。」という利用者には清拭で対応し、必要に応じて一階の小規模多機能ホームの特浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれる事無く不眠時も職員と会話をしたり安らげる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期通院では看護師が可能な限り付き添いをし、身体状況の説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な行事にて外出支援や創作活動を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへの買物が二日おきにあるので一緒に買物へ行ける環境を設けている。	日常的にはホーム周辺の散歩をしているが、季節に合わせて、山菜取りや花見など、希望によっては外食をしたり、道の駅などにドライブに出掛けている。また、畑にキュウリやトマトなど栽培し趣味と外出の機会として楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で管理し、その都度お渡しし使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールに公衆電話を設置いつでも使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	創作活動で模様替えの促しをし一緒に行っている。 畳コーナーを設置しくつろげる空間を設けている。	廃校した校舎を改修して利用していることから廊下やトイレなど広くゆったりしている。ホール兼食堂にはテーブル、テレビ、畳を敷いて炬燵をおき、壁にはカレンダーなどを張り日付けが分かるよう配慮している。掃除が行き届き、きれいな居室である。エレベーターも設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員全員が利用者様の好きな場所を把握し、他の利用者とのトラブル防止に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持参していただき使いやすい配置で生活できるよう努めている。	ベッドやタンスなどは事業所で準備している。利用者は小物入れ、テーブル、家族の写真や位牌など、馴染みの物を持参し、飾り付けや部屋の整理は職員と一緒にしない居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理の出来る方、踊りの出来るかた、その利用者様の残存機能を活かし支援している。		